

著者紹介

(執筆順, *は編者。①所属・職位, ②最終学歴, ③業績)

*宗前 清貞 (そうまえ きよさだ)

[序章, 第6章, 第11章]

- ①関西学院大学総合政策学部教授
- ②東北大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学, 博士 (法学)
- ③『日本政治研究事始め——大嶽秀夫オーラル・ヒストリー』(共編) ナカニシヤ出版, 2021年
『日本医療の近代史』ミネルヴァ書房, 2020年
『政策と地域』(共著) ミネルヴァ書房, 2020年

北山 俊哉 (きたやま としや)

[第1章]

- ①関西学院大学法学部教授
- ②京都大学大学院法学研究科中退, 博士 (法学)
- ③『福祉国家の制度発展と地方政府——国民健康保険の政治学』有斐閣, 2011年
「『ポリティクス・イン・タイム』から見た大蔵省と土建国家——市民を建設作業員として雇った国家」『政策科学』第28巻第3号, 2021年
「日本の政治発展 (JPD) からみた地方自治制度——明治維新から総力戦体制へ」『季刊行政管理研究』第170号, 2020年

城下 賢一 (じょうした けんいち)

[第2章, 第3章, 第13章]

- ①大阪医科薬科大学薬学部准教授
- ②京都大学大学院法学政治学研究科研究指導認定退学
- ③『きょうだいの日本史』(共著) 吉川弘文館, 2024年
『昭和史講義【戦後篇】(下)』(共著) 吉川弘文館, 2020年
「薬事法改正と行政・団体関係1956-1960 自民党政権初期の政策決定過程の事例分析」『立命館大学人文科学研究所紀要』第124号, 2020年

尾玉 剛士（おだま たかあき）

〔第4章，第5章〕

- ①獨協大学外国語学部准教授
- ②東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程単位取得退学，博士（学術）
- ③『医療保険改革の日仏比較——医療費抑制か，財源拡大か』明石書店，2018年
『どうする日本の福祉政策』（共著）ミネルヴァ書房，2020年
『公衆衛生と人権——フランスと日本の経験を踏まえた法的検討』（共著）尚学社，2024年

日野原由未（ひのはら ゆみ）

〔第7章，第16章〕

- ①岩手県立大学社会福祉学部准教授
- ②中央大学大学院法学研究科博士課程後期課程政治学専攻修了，博士（政治学）
- ③「公共セクターにおける外国人の雇用とマネジメント——NHSの外国人医師雇用行政」『法学新報』第119巻第1・2号，2012年
『帝国の遺産としてのイギリス福祉国家と移民——脱国民国家化と新しい紐帯』ミネルヴァ書房，2019年
『公正社会のビジョン——学際的アプローチによる理論・思想・現状分析』（共著）明石書店，2021年

三谷宗一郎（みたに そういちろう）

〔第8章，第10章〕

- ①甲南大学法学部准教授
- ②慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程単位取得退学。博士（政策・メディア）
- ③「医療保険政策をめぐるアイディアの継承と変容——なぜ保険者入院事前審査制度は導入されなかったのか」『年報政治学』67巻2号木鐸社，2016年
『戦後日本の医療保険制度改革——改革論議の記録・継承・消失』有斐閣，2022年

石垣 千秋（いしがき ちあき）

〔第9章，第12章〕

- ①都留文科大学教養学部教授
- ②東京大学総合文化研究科博士後期課程単位修得満期退学，博士（学術）
- ③「COVID-19対策における専門家組織と政策学習——日本の専門家会議と感染症対策分科会を例に」『公共政策研究』第22号，2022年
『医療制度改革の比較政治——1990～2000年代の日・米・英における診療ガイドライン政策』春風社，2017年
「医療制度改革の比較政治——日本・米国・英国における医療の標準化をめぐる」『日本比較政治学会年報』第15号，2013年

永田 尚三（ながた しょうぞう）

[第14章]

- ①関西大学社会安全学部教授
- ②慶応義塾大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程修了，博士（人間・環境学）京都大学
- ③『日本の消防行政の研究——組織間関係と補完体制』一藝社，2023年
「新型コロナウイルス感染症対応の課題と今後の危機管理のあり方について」『都市とガバナンス』（Vol.37）日本都市センター，2022年
『消防の広域再編の研究——広域行政と消防行政』武蔵野大学出版，2009年

小島 和貴（こじま かずたか）

[第15章]

- ①桃山学院大学法学部教授
- ②慶應義塾大学大学院法学研究科後期博士課程修了，博士（法学）
- ③『長与専斎と内務省の衛生行政』慶應義塾大学出版会，2021年
「『地域保健』とは何か」『都市問題』第112号，2021年
『長崎偉人伝 長与専斎』長崎文献社，2019年